

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2010.8.1

No.73

「龍馬伝」を機に火がついた江戸末期・明治維新ブーム。聖書の影響を受けた武士たちのことをこどもでも取りあげましたが、今回は影響を与えた宣教師について取り上げます。

オランダ人宣教師フルベッキは一八五九年五月七日ニューヨークを出発しました。四月十八日に結婚式をあげた直後のことです。大西洋まわりで日本を目指し、約五カ月で上海に着きました。そこに身重の妻は留まり、彼は十一月七日長崎に到着します。その二か月後待望の女の子が誕生します。日本のことを思い「エマ・ジャポニカ(日本)」と名付けられましたが生後二週間で病気のために召されました。彼の書簡には次のようにあります。

「この突然の悲しみは本当に深刻でした。多くの希望も失意に変わり、希望にみちた歓喜も悲嘆に変わりました。…でも死んだ娘は、この世がこの幼児に与えるよりもっと救い主のもとにあって、よりよい祝福を受けるでありますよ。…」

実はある病をきっかけに彼の人生は大きく転換していました。オランダで生まれた彼は工学を学び二十二歳のときに渡米しました。架橋工事の技師として活躍しましたが病に倒れます。そのとき、少年のときにギョツラフ宣教師から海外宣教を薦められたことを思い出したのです。彼はこう祈りました。「もし、病気が治って再び立つことができ

幕末に来日した宣教師たち



たならば、私は生涯を外国伝道のために捧げます。」病は癒され、こうして日本への宣教師を志願することになったのです。

日本に来てもその当時まだキリスト教は禁教でした。これが解かれるのは何と明治六年(一八七三年)のことで十四年ほどは公に宣教師として働くことができなかったのです。彼は長崎奉行所管轄の済美館という英学所で、また佐賀藩の藩校致遠館で英語やその他の教科を教えました。そこで大隈重信や副島種臣などはその生徒でした。

佐賀藩の家老、村田若狭守政矩(わかさのかみまさのり)が長崎に赴任しているときのことです。家臣の古川礼之助が海で小さな包みを見つけます。オランダ語通訳によるとそれは英語の聖書でした。村田はその意味を知するために上海から漢訳の聖書を取り寄せましたがなかなか理解できません。そのころ、長崎で教師をしているフルベッキのことを聞きます。彼は弟の綾部三左衛門ら三人の藩士を長崎に送って聖書を学ばせたのです。

家臣から間接的に聖書を学ぶこと四年、ついに一八六六年、村田若狭守はフルベッキと対面します。聖書を読んだときの感想を次のように述べています。

「私が初めて、イエス・キリストの品性と事業を読んだ時の感激は言葉に表せない。かくの如き人物を見たことも聞いたことも想像したこともなかった。彼の品性と生き

ざまに私の心は虜になった。」

そして、キリシタン禁制の時代にありながら村田も弟の綾部も洗礼を願い出しました。彼らの主君佐賀藩藩主の鍋島直大(なおひろ)は海外に対して大変心が開かれており、若狭守が家老職を引退するということでも事を治めたそうです。

その後、フルベッキは東京に出て開成学校(東京大学の前身)の教師となり、一八七三年には政府法律顧問となります。明治政府のアドバイザーとして近代日本を建て上げるために大きな役割を果たしていったのです。

欧米列強に蹂躪されないように日本のために立ち上がった多くの若者たち。ところが彼らを教えた多く教師は真に日本人を愛する欧米キリスト者たちだったのです。私たちは見せかけの信仰者と真の信仰者を見分けなければなりません。偽の宗教は人を滅ぼし、国を危うくしますが、真の信仰は人を立て、国を興していくのです。



中央に子どもと写っているのがフルベッキ。この写真に西郷、坂本たちが写ってる？この話は眉唾のようです。教え子の佐賀の藩士たちだそうですが、雰囲気は伝わってきますねえ。

「こんなことしました！」 行事報告

七月

- 二日 合同公文教室
- 五日 長居プール
- 八日 塗り絵・工作教室（コルクで作ろう1）
- 十七日 東住吉お楽しみ会
- 二十六～三十日 外壁塗装、見学・お手伝い
- 三十日 ダブルO姉来訪

お楽しみ会

R

一年に一回、「お楽しみ会」という催しが私たちの教会であります。今年はいっぱいの人、百四十名ほど来てくれました。私は、Mちゃんといっしょにアトラクションコーナーを回りました。日曜学校の先生たち、またお兄ちゃん、お姉ちゃんが用意してくれました。

私が一番、気に入ったアトラクションは、「プリクラコーナー」です。まず、写真を撮ってもらってパソコンで編集します。編集するのは難しかったけど、自分で色々写真に字を描いたので、うれしかったです。家に帰って、写真立てに入れました。

フードコーナーで食べたのは、「かき氷」です。その日は暑かったもので、冷たいかき氷がおいしかったです。回転焼もやきそばもありました。他にも、射的・ストラックアウト・バルンルーム・バルンアート・チャンバラ対決がありました。

今年のお楽しみ会の雰囲気は、本当の、夜店に行ったみたいでした。ちようちんや屋台があつて本格的なお祭りに負けないくらい立派でした。最後の抽選会も楽しかったです。私も当たりました。スタッフの人たちは汗を流しながら、用意してくれたので大成功でした。本当に楽しいお楽しみ会でした。十二月の「クリスマス会」も、とても楽しみです。

O 姉妹たち。

この次の日、タイへ出発



お楽しみ会プリクラ。N が画像合成、M がインストラクターを担当しました。



受験勉強

M

ご存じの方も多いかもしれませんが、今年で僕は受験生になり、大学受験に向けて準備中なのです。先日、模擬試験を受けてきました。結果は惨敗：夏休みは勉強漬けになりそうです。しかし、そうは言っても周りの人は言います。「でも、真良樹君は勉強ができてそう」：プレッシャーを受けます。しかし、それは言う人のせいではありません。確かに、自分はそれらしく「振る舞い」、また褒められることが「心地よかった」のです。実は長い間、なかなか受験モードに入ることができませんでした。数学などの成績が悪かったため、今更やってもできないだろうと半分あきらめていたのです。そんな僕を変えたのはみことばでした。父のアドバイスに従い、みことばを今までになく真剣に読み始めたのです。すると、自然に次の日からやる気がでてきたのです。そして、今までの自分の状況を悔い改め、集会でも先輩のクリスマスちゃんたちに正直に話しました。その時の爽快感といったら！

もちろん、大学受験はちょっと勉強をするだけで通るほど甘くありません。今日も数学や英語との格闘は続きます。しかし、今は不思議と力がわいてきます。確かに先の不安はあるのですが、この先に神様が備えてくださっている計画にワクワクするのです。最後に、今自分の勉強机の前に飾っているみことばを紹介します。

「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」
(ピリピ書四章十三節)

編集後記

建築後十五年を超えて、七月に外壁塗装をしました。作業する方も目張りのされた室内にいる者も、暑さで大変でした。「餅は餅屋」と言いますが、やはりプロに頼むと仕事が早い、きれい！以前、部屋の壁塗りをした私たちも大いに参考になりました。